

之に加ふるに二月に至り電車三田支部に本部役員にして三田支部長及び小池支部長及び副支部長等三支部の本部役員問題を出し、茲に又本部対三田支部対立の溝渠を作つたのである。

その内容を見るに小池及安達は支部幹部の職を退きたる関係上支那規約に従つて、健康保険組合会議員の職をも退く可きであつたに不拘、依然その地位に悉々として止まつた爲、同支部評議員会は西人の行動を以て規約違反とし除名を決議し、本部にその採決を迫つたのである。

然るに本部は該除名決議を問題視せず、有耶無耶の間に葬り去らんとしたる結果、この情勢を知る電車支部は小池を擁護せんとする本部の態度を快とせず、その憤懣は愈々本部不信任排斥の大勢を助長し、左翼に出た本部排斥の叫びは電車部を中心として全く白熱化したのであつた。

三 三月廿五日、同廿六日開催の東交中央委員会と、
組合今後の方針に関する聲明書及組合統制案

東交の主勢力たる電車部大衆の信望を離れ、組合統制力を缺いた本部の焦慮は、本部費不納の決議に依つて更に難局收拾の方途を失ひ、茲に何等かの機会を作つて、新生面を開拓するに非ざれば、光輝ある組合の四分五裂の悲運をも招来し兼ねまじき情勢に逼迫したのであつた。これ等対策に苦慮した本部は数次に亘る執行委員会或は懇談会を開き協議したる結果、東交更生案とも言ふべき、

「組合今後の方針に関する聲明書」の發表及
「組合統制案」を可決して、三月廿五日、同廿六日開催の中央委員会に提案したのであつた。

全従業員の日常に於ける経済的伸張の爲に東交本部は、當局と労働條件に関して団体協約の締結を目的として戦ふことを當面の闘争題目とすべしと宣言してゐるのである。如斯東交が団体協約の提唱をなしたと言ふことは、我が國労働運動にとつて劃時代的經濟闘争